

## 第2回 総合計画審議会（創造分科会） 議事要旨

日時 平成22年2月3日（水）午前10時00分～12時00分

場所 横須賀市消防局庁舎4階災害対策本部室

出席委員 影山清四郎委員（座長）、澤田信子委員（副座長）、植竹喜三委員、遠藤千洋委員、大武勲委員、川名亘子委員、藤原尉夫委員、松本敬之介委員、森川菜摘委員、吉村彰展委員、渡辺昌昭委員（以上11名）

事務局 横須賀市都市政策研究所 福本政策担当課長、小澤主査、檜山主任、山中主任

傍聴者 市民2名、市議会議員1名、報道関係者1名

議事内容

1. 委員紹介
2. 報告事項
3. 審議事項
4. その他

### 1. 委員紹介

（澤田副座長）

- ・神奈川県立保健福祉大学に勤務しており、主に介護福祉の研究をしています。横須賀市民でもあり、そういった観点から参加したい。

（渡辺委員）

- ・腎臓病を患っており、NPO法人神奈川県腎友会の理事をしています。
- ・私が住んでいる谷戸地域は急傾斜地を開発途中で、業者の倒産により放置されている状況です。そのため、2つの町内会で共同して県や市に対して防災工事の要望を行っています。先日も浦賀の愛宕山の工事現場を視察したところ、県の開発の許認可があまりにもずさんではないかと感じたところであり、今後市内の他の12カ所の工事現場と連携して、県と市に対してどのような取組を進めようかと検討をしているところです。

（吉村委員）

- ・横須賀市立小学校長会副会長であり、現在北下浦小学校で校長を務めています。
- ・今後10年間の横須賀の子どもたちの事について議論していきたい。

（森川委員）

- ・慶應義塾大学に通学しています。
- ・高校時代には横浜市に、現在は藤沢市に通学していますが、そうした中で横須賀市から外に出て発信するお手伝いを出来ればと考えています。また他市の取組で横須賀市に取り込むことが出来るものがないかという視点から意見できればと思います。

（松本委員）

- ・横須賀市子ども会指導者協議会に所属しています。青少年育成の立場から意見を述べて

いきたい。

(藤原委員)

- ・社会福祉協議会会長であり、地域福祉の充実に尽力しています。今後少子高齢化が進む中、福祉分野においてどういうまちづくりをしていくかが重要な課題であると感じています。

(川名委員)

- ・母親クラブ連絡会の会長をしており、若い子育て世代の橋渡しをしていきたいと思っています。
- ・また、個人的な話題ですが、同居している姑と実家の母がそれぞれ深刻な病気を抱えています。今はそれぞれの世代が断絶しがちですが、それぞれの世代の橋渡しをする方法について考えていきたいと思っています。

(大武委員)

- ・障害者施策検討連絡会は、障害を持つ人やそれを支援する人の集まりとなっています。今後皆が住みやすい町をどのようにつくればよいかを話し合っていきたいと思っています。

(遠藤委員)

- ・市民の健康を守るという医療の問題といえば、救急医療センターの移転が大きな問題であると思います。また、その他の問題についてもここで勉強していきたい。

(植竹委員)

- ・老人クラブ連合会の会長を務めています。
- ・老人クラブも年々会員が減少している傾向にあり、この傾向をどのように食い止めるかが課題となっています。そのためには、老人クラブを楽しく長生きの出来るクラブにしていきたいと考えています。

(影山座長)

- ・東京福祉大学に所属しています。
- ・全体会は欠席をさせていただいたので、今回初めてお会いすることとなります。
- ・専門は教育学で、横浜国立大学に所属していた頃から35年あまり教員養成に携わっています。本日、おそらく社会科見学であったと思いますが、小学生が横須賀中央駅から先生の引率を受けて移動していました。こうした子どもたちの未来がすこしでも明るくなるような計画を、皆様とつくっていききたい。

## 2. 報告事項

### (1) 第1回総合計画審議会の議事要旨について

(事務局)

- ・第1回総合計画審議会の議事要旨について確定したので、お目通しいただきたい。

(2) 人口等について

(事務局)

—資料 1、資料 2 説明

(松本委員)

- ・社会増減における自衛隊の方の割合はどの程度なのでしょうか。

(事務局)

- ・自衛隊員の社会移動については公式には発表されていません。防衛大学の学生にしても基地の隊員にしても、年間を通せば出入はおおむね拮抗していると思われるので、社会増減への影響は大きくないと考えられます。

(大武委員)

- ・資料 1 の P 6 で 2 つの地区を比較していますが、地区の特徴として、例えば交通アクセスの違いなどがあるのであれば教えていただきたい。

(事務局)

- ・A 地区は久里浜地区の郊外型団地であり、B 地区は浦賀地区の郊外型団地です。
- ・A 地区は団地の中にバス路線がありますが、B 地区は地区内までバス路線が入っておらず、A 地区の方が交通利便性が高い地域となっています。
- ・本調査は 2 カ年連続で実施した調査で、1 地区だけの調査では結果が偏るのではないかとということと、交通利便性が低い地域の方がより世代交代が進んでいないのではないかとという仮説をもっていたことから、二つの地区で実施しています。結果的には両地区で大きな差はでていません。

(大武委員)

- ・同じ同居でも世帯としての同居と、単身の子どもとしての同居の違いが人口動態に影響すると思いますが、こうした点の把握は可能でしょうか。

(事務局)

- ・本調査は高齢化する郊外型団地に対して、世代交代が進んでいるかを中心に調査したもので、本資料はその中から子どもが市外に出ているかどうかだけを明らかにした部分を抜粋したものとなっています。
- ・調査の前段では、入居したときと現在の同居の形態については把握しています。

(影山座長)

- ・関連して 65 歳以上の夫婦や単身者の住んでいる割合や、空き家率なども調査資料としては保有しているのでしょうか。

(事務局)

- ・ご指摘の通り保有しています。

(3) 横須賀市基本計画の策定に関する特別委員会（平成22年1月26日開催）について  
(事務局)

—資料3説明

(澤田副座長)

- ・資料3の1ページの加藤委員の発言に対する理事者の発言要旨について、4行目に「交流分科会は～」とありますが、創造分科会の誤りではないでしょうか。

(事務局)

- ・ご指摘の通りです。

(渡辺委員)

- ・資料3の4ページ、矢島委員の1点目のご指摘は、前回の計画と変わり映えもないし、ほとんどつくられているというご指摘ではないかと思います。私も前回の審議会の後、8割～9割程度内容については固められており、審議会として多少の変化を加えるという作業になるのではないかと、まさに委員と同様の感想を持ちました。
- ・また、人口が減少していくというのは、非常に危機感のある問題で対策を講じる必要があると感じていましたが、財政状況も悪化する中では、危機感ではなくそういった状況を受け入れて審議会で議論しなければならないと感じました。
- ・市長は再三、少子化が進むことと財政状況が非常事態であるということをおっしゃっていたが、そうであるならば、財政状況を議論せずに「持続可能な発展を遂げる都市」ということを提示するのは、矢島委員の指摘の通りあまりにも相応しくないと思います。

(影山座長)

- ・審議事項に関わると思うので、事務局は現段階でお答えいただける内容についてのみ、お答えください。

(事務局)

- ・内容が変わり映えしないということについては、今回は基本計画の改正であり基本構想が変わっていないということの影響も大きいと思います。しかし、これから具体的な施策を記載していく中で、皆様のご意見を反映できるかが重要だろうと考えています。
- ・現在は取組のインデックスについてあくまでも事務局案として出させていただきましたが、具体的な施策の検討の中でそこについても変更があれば変更していきたいと考えていますので、自由にご意見を頂きたい。

(渡辺委員)

- ・特別委員会で基本的な施策を新たに作成すると聞いていますが、そのような動きがある

のでしょうか。

(事務局)

- ・議会とこの審議会は別であるので、議会が別の提案をするということはありません。しかし、議会の提案も審議会に頂出し、審議会の議論も議会に提示していく予定ですので、相互にキャッチボールしながらよりよいものが出来ればよいと考えています。

(影山座長)

- ・残りは審議事項にも関わると思うので、そこで議論したいと思います。

### 3. 審議事項

(事務局)

#### 一資料4、資料5説明

(影山座長)

- ・今後のスケジュールとしては、今回と次回において、施策の枠組みが出来ればよいと考えています。そのため、本日は、創造分科会が担当する大柱3と大柱4についてご議論いただきたいと思いますが、内容が多いため、分けて議論したいと思います。
- ・渡辺委員の方から、この施策体系の位置づけについて、議員が策定するものと審議会で検討するものの2つがあるのかという質問が出され、それについてその可能性もあるというお答えを頂きました。

(渡辺委員)

- ・財政的な裏付けがないような、例えば医療の充実といっても、病床数が減り医者が減少し診療科目が減るといった報道がある中で、絵に描いた餅のようなものは議論したくないと思っています。
- ・前回も申しあげたことであるが、特別委員会として個別に議論するのではなく、一緒に議員を巻き込んで議論したほうが良いのではないかと思います。

(影山座長)

- ・基本計画の性格に関するご質問であると思います。
- ・今回の内容は全ての分野にわたって提言されており、かつきわめて抽象的な言葉で述べられているため、イメージがわきにくい面は多々あります。しかし、物事を進めるためには基本的な方針についてここで充実させていく必要があると思っています。
- ・今のご意見に関連して計画そのものの性格や審議の進め方について、その他ご意見があればご発言下さい。

(大武委員)

- ・今回交流・共生・創造の分科会に分けられていますが、分科会に関係しない一番中心となるポイントについてもう一度ご説明していただきたいと思っています。

- ・ 3つの分科会が存在するが、それぞれの分科会が何をよりどころとして検討していくのかが明確になっていないように感じます。

(事務局)

- ・ 議論の便宜上全ての内容を審議することが難しいとの判断から3つの分科会を設置しています。
- ・ 創造分科会については、子育て支援や教育といった「3」の柱と福祉という「4」の柱をあわせて、いわば人を育てる、人が新しい横須賀をつくっていくという意味で創造分科会としています。
- ・ 共生分科会は、「2」の柱と「5」の柱を担当しているが、共生という概念がないと横須賀市の発展が得られないという考えの基に、自然環境の保全や産業振興・市街地開発、都市基盤の整備などについて共生が必要との観点から、共生分科会と名付けています。
- ・ 交流分科会というのは、「1」の柱の中に交流と入っているが、横須賀市の発展は産業界においても観光においても、人と人との交流が重要という観点で名付けています。また分野を分割していく中で、第5章の柱もこちらの分科会で担当しています。
- ・ 総合計画は、座長の指摘通り姿勢を推進する上での型紙のようなものであり、先ほどの指摘のあった医療の充実については、医師の確保をして医療を充実しなければいけないということを書き込むことが必要と考えています。その上で、そのために何をしていくのか、予算がどれくらい確保できるのかといった内容については、この下の実施計画を考えていく際や毎年度の予算編成の中で検討していきます。
- ・ 総花的というのは批判的な言葉で使われますが、総合計画は、何をしていくべきかを記載するという意味で総花的でなければいけないという面もあると考えています。

(影山座長)

- ・ 教育のことを議論していれば、都市のあり方や自然との関係などの全てのジャンルに関わってくるため、他の分科会の内容に関わることもご議論いただいて良いと思います。
- ・ われわれは、まず、「個性豊かな人と文化が育つまち」という立脚点から、こういうものが必要ということを議論していきたい。

(松本委員)

- ・ 意見を出す場合、施策にかかる場合と実施計画にかかる部分を区分けできない場合は一緒に提示して良いでしょうか。

(影山座長)

- ・ それでよいと思います。

(藤原委員)

- ・ 少子化が進む中で子育て支援策は非常に重要であると思います。その反面、高齢化が進んでいく中で、生きがいづくりが触れられていません。生涯学習等とも関連していきませんが、小柱としては、生きがい対策という内容があったほうがよいと思います。

(松本委員)

- ・青少年が心豊かで健やかに育つ環境を考えています。子どもたちを自然の中に連れていくと何気なく遊びが始まりルールが決まっていきます。そのため、市内に遊具がなくみどりと砂場のある公園をつくってはどうかと思います。そうすれば、そこで遊ぶ子どもたちの発想も豊かになるとともに、遊具に関わる事故を防ぐことも可能となり、加えて災害時に避難場所として活用できるのではないのでしょうか。
- ・また、地域における青少年育成活動について、横須賀市には青少年育成推進員が設置されています。ここでは、地域の連絡会も設置されているが、子ども会との関係が希薄であることが多くなっています。青少年という年齢を規約から見ると10歳～30歳となっていますが、地域の青少年は地域で育てるという観点から、子ども会を視野に入れた仕組み作りを検討していただきたいと思います。

(渡辺委員)

- ・地域の老人会から発言して欲しいと頼まれたことを発言します。
- ・老人会は、市の決まりで、ある人数で1つの老人会とされているため、住んでいる船越4丁目では5つの老人会が設置されています。しかし、老人会では1つの町内会で1つの老人会として活動したいという思いがあるようであり、ご検討いただきたい。

(影山座長)

- ・今の内容は具体的にどこに盛り込むことが適切でしょうか。

(渡辺委員)

- ・先ほど指摘のあった高齢者の生きがいつくりに関する小柱を設置する予定であるならば、そこに含めるのがよいと思います。

(吉村委員)

- ・「特色のある教育の推進」とあります。学校独自で特色のある学校づくりということで取り組んでいますが、ここで「特色のある」というのは、横須賀市全体でなにか1つの特色を生み出していくイメージでしょうか。

(影山座長)

- ・10年前の学習指導要領であればこの言葉で意味が通じたが、今後を考えるともう少し丁寧に説明しないといけないと思います。

(吉村委員)

- ・現場は様々な問題を抱えているので、もう少し整理していった方がよいと思います。

(松本委員)

- ・「人間性豊かな子どもが育つ教育の充実」とあるが、現状では学校教育の中では限界も見えてきているのではないのでしょうか。市内の小中学校で、地域住民や企業・団体の力を借りた授業も行われていますので、施策でも実施計画の中でもどちらでもかまわないので、学社連携・融合という概念を取り入れ、地域の力で学校教育の充実を図ることを明記すべきではないかと思います。そのことが、農業や漁業といった横須賀市ならではの特色ある教育につながるのではないのでしょうか。

(影山座長)

- ・教育と子育てを分けて記載せざるを得ないが、分けることで施策の内容が分離していくことを防ぐ必要があると思います。

(大武委員)

- ・不登校にしても支援を要する生徒にしても、非常に多いという課題があります。今年の4月には岩戸に県立特別支援学校が開校しますが、こうした人たちが地域の中で生活するためには、地域で特別支援を必要とする子どもたちや障害者、さらには高齢者に対して心配りできるような施策が必要ではないのでしょうか。
- ・加えて、支援が必要な人たちが地域で生活していくためにはキャリア教育が必要となります。キャリア教育についてはすでに触れられていますが、支援が必要な人へのキャリア教育は、より広範囲に、行政や事業者との連携の中で、どのように進めていくのが課題であり、具体的に書き込みがあると良いと思います。
- ・スポーツについても、高齢者だけではなく、障害の再発防止や障害を持つ人のスポーツ文化といった視点からも検討する必要があります。横須賀市にある体育館について、それぞれ施設ごとの特色を明確にし、ある体育館を高齢者・障害者エリアなどとして、併設する図書館・体育館・プールについてバリアフリー化や多目的トイレの設置、医療機関と連携した健康づくり等の支援なども検討できれば良いのではないのでしょうか。

(藤原委員)

- ・「人間性豊かな子どもが育つ教育の充実」に書かれている内容は学校教育に特化されています。しかし、子どもの教育は、学校教育だけではなく、視点として、家庭教育や社会教育の内容も含める必要があるように思います。

(影山座長)

- ・全体としていわば問題を線で見ないでいますが、実際の問題は面に対応しないと解決できない状況になっています。
- ・自然との触れ合いや高齢者との関わりやスポーツの問題などをつなげて、地域の中で子育てなどの支援活動をしていくコーディネーター、つなげる役割をする人が必要になっていると感じています。現行計画では「人づくりのためのしくみづくり」として、高等教育機関等との連携の内容が記載されていましたが、こうしたしくみではなく、委員からの指摘事項を実現するためのアドバイザーやコーディネーターを養成する意味でのし



くみづくりが必要だと思います。

(澤田副座長)

- ・人と人のつながり、人と自然のつながり、人と地域のつながりが、根底にあるものだと思います。これらをどれだけ豊かにするかという点で、市民も関わってくるのが大前提となっているように思います。
- ・「文化」をどのように捉えているかについてみると、現行計画では芸術などとなっています。しかし、人が孤立しているなどの地域状況を踏まえると、例えば「サービスの授受の文化」として助けを求められる環境を構築するなど、文化をもう少し広く考えた方がよいのではないのでしょうか。そうすると、「4. 多様な学習機会と活動の場の充実」の内容が芸術に限られないし、「文化の担い手の育成」の中にそうした内容が含まれてきても良いと思います。
- ・こうして欲しいとかこうあって欲しいではなく、市民として出来ること、それにより喜びを感じ、共感しながら活動を進めていくことが重要ではないのでしょうか。
- ・現行計画にある「地縁にとらわれない交流と連携の支援」が、今回の案では「スポーツ」となっていますが、スポーツは今まで出来なかったことが出来るようになることで生きがいを感じることにつながるという意味も持つので、生きがいという内容を強調すべきではないのでしょうか。また、生涯学習とは、様々なわからないことがわかるようになり、人との関わりの中で行動を起こすことができ、行動を起こす中で共に生きることを知り、人間として何が出来るのかがわかるという形で発展していくことです。そうすると、生涯学習の施策の中でそもそも、生涯学習を通じて私たちがどのように育っていくべきかがみえると良いと思います。

(川名委員)

- ・「個性豊かな人と文化が育つまち」の中柱1、2、4について意見を述べたいと思います。
- ・全体を通じて、昨今支援ばかりを求めて、自分たちが頑張ることを放棄しているように感じています。子育ても支援していただくだけでは自立できず、人の役に立ち何かを勝ち取ることで子育てが楽しくなるという面もあります。そのため、子育て支援でも市民や母親の力を引き出して、自己実現を通じて心の充実につながるしくみであると良いと思います。
- ・具体的には、中柱1の小柱1「子どもを産み育てやすい環境づくり」の説明文の「安心して子どもを産み、育てられる」の中に「自立して」という表現があると良いのではないのでしょうか。そうすると中柱の説明文にも同様の表現が入るかもしれません。
- ・中柱2「人間性豊かな子どもが育つ教育の充実」の説明文の中で、教育を「市民と共に推進します」としてはどうでしょうか。
- ・また、小柱1の「生きる力を伸ばす教育の充実」に関して、子育て支援を厚くするあまり高齢者支援が疎かになりがちです。しかし、命の尊厳と高齢者への理解がないと、子どもたちはこれから先を見通せないため、高齢者をもともに尊重していくことも重要です。そのため、異世代への理解や高齢者への理解という内容を盛り込んではどうでしょうか。

自分があるのは、先の世代への理解があるということを示せると良いと思います。

- ・中柱4の小柱1「地域文化の掘り起こし、継承、振興」について、歴史的に見える遺産だけではなく、歴史そのものを尊重することも必要ではないでしょうか。「掘り起こし」と同時に、子どもたちのみならず多くの市民がその「価値を認め誇りとするように推進する」という姿勢を盛り込んでいただきたいと思います。例えば、米海軍基地はもともと造船所であり、近代文化の曙ともいわれたことや、小栗上野介という歴史的人物がいたことなど市民が誇りに思えるようなことがあると良いと思います。
- ・具体的には、子どもだけではなく、大人も価値を認めるだけで誇りにつながると思うので、文中に「価値を認める」という表現があると良いと思います。
- ・母親クラブは、いま子育てをしている世代の人々がボランティアとして活動しています。いつもは支援を受けている人が支援を行い、それに対してありがとうといわれることで生きがいを持つことが出来ています。

(影山座長)

- ・総合計画のコンセプトがなにかということを指摘されたように感じました。
- ・市民が行政サービスの受益者であるだけではなく、自らがまちをつくる担い手であるという自覚を持って、様々な人と協力・協働しながら活動することをバックアップする施策であった方が良いというご指摘であったように思います。
- ・文化やスポーツなどが伝統的な文化観にもとづきすぎているのではないか、用語も含めて、今後どういう事が必要であるかという観点からより広い視点で見直すべきではないかというご指摘であったと思います。
- ・次に大柱4の内容に移ります。

(松本委員)

- ・「地域社会」という表現をこだわって使われているように思うが、単に「社会」という言葉でよいのではないのでしょうか。もし、利用するのであれば誤解を生まないように説明が必要であると思います。
- ・ITを活用した情報提供についてであるが、市内のインターネットの普及状況がわかれば教えていただきたい。また、ITについては利用できない人もいるので、情報の更新頻度をあげたりといった広報掲示板の活用方法を再検討するなど、既存のシステムの有効活用も検討すべきだろうと思います。

(渡辺委員)

- ・全体的に、行政が市民にこういうまちをつくっていくというお知らせを書いているように感じます。一方で、審議会では市民がこういうまちにしたいということを発言しているので、その両者の融合をどのように図るかが重要です。
- ・例えば、中柱2の「ユニバーサルデザインのまちづくり」にある考え方は、これまで障害者に対しては手当を支給してきたが、財政状況が厳しいという理由でその支給を廃止し、その予算をバリアフリーなどの費用に転嫁するということであると思います。しかし、障害者の中には現金支給が必要という方もおり、議会でも議題になっています。

こうした話は計画の中に記載されていないし、横須賀市では、障害者も含めてそういう方向でよいのだという風に捉えられてしまいます。

- ・しかし、谷戸に居住している障害者や高齢者にとっては、病院や買い物にどうやって行こうかということが喫緊の課題となっている。この計画にはこういった一番に考えなければならない課題を考える必要性が反映されていない。こういう綺麗な文章だけでは、自分たちがつくったまちづくりの結果であると思わせることは出来ません。

(遠藤委員)

- ・バリアフリーのまちづくりをユニバーサルデザインとしているのはわかるが、直接的にバリアフリーとした方がわかりやすいのではないのでしょうか。
- ・中柱4の「健康づくりの推進と医療体制の充実」で、こころと身体健康づくりを分けたのはわかるが、心身の健康づくりは一体的に進めていくべきものであるので、同じ小柱とした方がよいと思います。

(事務局)

- ・ユニバーサルデザインとバリアフリーについては、バリアフリーはそこにあるバリアを取り除くことが前提となりますが、ユニバーサルデザインはバリアをつくらないという前提で考えることとなります。
- ・現状の市の施策はバリアフリーが多くなりますが、例えば市が実施するイベントなどで保育対応を行うなど、そこに来る様々な方を想定しながらバリアをつくらないという考えがあることと、心にバリアをつくらない政策を進めていきたいという意味も込めてユニバーサルデザインと変えました。
- ・心の健康づくりについては、精神疾患対策とか自殺予防対策など、心の問題がクローズアップされているため、柱を切り分けたものです。一方でご指摘のように、心身は一体として考えるべきということについても検討していきたい。

(遠藤委員)

- ・医療体制の強化・充実で医師の確保などとなっているが、スローガンのような内容を記載するだけでよいのでしょうか。財政的な中で医師を確保することが困難であると思う中、もう少し、現実に即したような内容にしたほうがよいのではないのでしょうか。

(影山座長)

- ・基本計画には行政の手を縛るという側面もある。一方で市立病院の外来が廃止されるという動きもある。

(事務局)

- ・現実を見ると非常に厳しいと思う。もともと市民病院に指定管理制度を導入した背景には、そのままでは医師の確保が難しく、診療科が閉鎖される状況が起ころうということであり、その対策という面もありました。
- ・結果としては当初の予定通りとなっていない面もありますが、市の大きな方針としては、

具体的な方法論は難しいが、医師を確保していくことを姿勢として記載すべきであると思っています。

(渡辺委員)

- ・姿勢としてという発言ではあったが、市長はそういう意向ではないと思います。救急医療センターもこれから拡充するのではなく、維持・改修という方向であるようです。
- ・先日驚いたが、三浦半島全体を見回しても救急医療センターに眼科医が夜8時以降に当直している病院はなく、神奈川県全体でも横浜市内で対応しているということでした。
- ・こうした現状があるにもかかわらず、基本計画の中でこうした表現を盛り込むというのは違和感があるのではないのでしょうか。

(藤原委員)

- ・基本計画に掲載されているからといって全てを行政がやるということではないと思います。市民・企業などそれぞれが役割分担していくわけですが、市の姿勢として意気込みを掲載する必要はあると思います。
- ・そう考えると、現状がそういう状況ではないとはいえ、もっと長い目で見たときに、医療体制の強化・充実が必要という意味で、表現はともかくとして掲載すべきだと思います。
- ・総合計画に掲載することで、事業に対する予算の確保のしやすさが変わるという観点からも掲載すべきです。

(大武委員)

- ・障害者関係でみると、障害者の権利条約というものは承認されていない中で、人権といった内容についてこれだけでよいのかという疑問があります。
- ・例えば中柱1「平和と人権を尊重する誰にも開かれたまちづくり」で基本的な人権という問題について、一般の人たちに幼いときから自分と相手の人権を尊重して考えていく土壌をつくりあげることが基本だと思うが、そうすると教育の問題も絡んできます。しかし、ここでどのように表現するかは難しい。
- ・総合的な地域福祉サービスという時に、高齢者が増えて担い手が減った結果としてどのように効果的に実施するかを考えると、それは都市づくりにも関係してきます。
- ・横須賀市では道路整備が遅れており、駐車する場所がない。他の地域から人を呼び込み文化資源を見ていただき地域産業を活性化していくときに、資源をつなげることが出来ない現状もあります。
- ・文化と考えたときに、まずは、人間生活の基本となるたまり場の確保やトイレの整備などが必要であり、それがユニバーサルデザインや健康づくりにもつながっていくのではないのでしょうか。

(影山委員)

- ・言葉にするのが難しい面もあるが、まずは、ご発言頂いていくことが重要だと思います。
- ・現行計画で記載されている世代間交流の内容が削除となっているが、これは掲載しても良いのではないのでしょうか。

(森川委員)

- ・まちづくりや創造を考えた時に、今まであるものや今までいる人だけではなく、新しい刺激や別のものとの融合が必要となります。
- ・現在の施策の内容は、コミュニティ内の人々の触れ合いに特化しているように感じますが、それだけではなく、外に開いていくために、コミュニティ間のつながりについても取組を進めていくという内容があると良いと思います。

(植竹委員)

- ・大柱2の中柱3「産業の成長支援と企業誘致」について、既に大型店舗がなくなっていく中で、今更支援しても効果があるのでしょうか。また、こうした大型店舗がなくなると、人が集まらなくなり、ますます寂しい町になっていくのではないかと思います。

(澤田副座長)

- ・平和と人権の内容について小柱の1と2の内容については言葉をわかりやすくした方が良いと思います。
- ・男女共同参画とありますが、男女ではなく、外国人や障害を持つ方を含めた人の違いを認め合っていくという観点の方がよいのではないのでしょうか。
- ・ユニバーサルデザインについては、もう少しこころのバリアについて追加した方が良いと思います。
- ・これからは認知症のケアをどうするかが最大のテーマになりますが、その解決策が豊かな社会を築くことのカギになるのではないかと思います。そのためには、地域包括ケアを充実させていくことが必要です。また心と体は一体であると思うので、心身の健康づくりと生きがいづくりが関係するのではないかと思います。
- ・健康維持とありますが、健康を維持するというのは難しく、維持という言葉に違和感があります。
- ・医療体制の強化・充実については、地域のかかりつけ医や看取りを充実させる状況を構築していくことで人と人との絆を強めていくことができます。医療・介護とどのように連携していくかが重要な課題になると思います。

(遠藤委員)

- ・今ご指摘もあったが、健康維持よりも健康を守るためという方がよいと思います。健診でも見つけるだけではなく健康を守るための支援が重要となっています。
- ・大柱4の中柱4の小柱3「医療体制の強化・充実」について、医師の確保などだけではなく、救急医療の充実や整備などの表現も入れた方がよいと思います。

(影山座長)

- ・委員としては、行政に求めるだけではなく、自分たちが何をすべきかという観点からも発言しています。一方で行政としては何ができるかから考えているので、そのあたりのズレがあると思います。
- ・ただし、ともに何かをつくっていこうという呼びかけが前文としても盛り込まれるとよ

いと思います。

(事務局)

- ・平成 20 年度に庁内で骨子案を作成する際に、様々な意見が出た結果としてこうした案が出来ていますが、その際に気がついていなかった意見もお寄せいただけたと思います。
- ・次回、どこまで出せるかわからないが、この骨子案を作成する際の考え方ということについてもお示ししたい。また、今後具体的な内容を記載するときに、皆様から頂いた具体的なご意見なども踏まえながら、全体の意味が伝わるようにしたいと思います。
- ・なお、遠藤委員からご指摘のあった救急医療は大柱 5 の中柱 5 で捉えています。

(遠藤委員)

- ・大きな意味では医療体制に含まれる内容ではないでしょうか。

#### 4. その他

(事務局)

- ・次回は 3 月 9 日の午前 10 時 00 分～とさせていただきます。
- ・4 月以降についてまだ決定をしていないが、座長・副座長と事務局で調整をさせていただき、決定をさせていただきたいと思っています。ただし、今この場でこの時間帯や曜日の都合が悪いと言うことであれば教えていただきたい。

(遠藤委員)

- ・開業医をやっているので、午前中の時間帯を外していただけるとありがたいです。

(影山座長)

- ・それ以外の個別の曜日については、また個別に事務局にお知らせください。

(事務局)

- ・座長・副座長の候補を頂き、幾日かお示しした後に決定していきたいと思います。
- ・今日の議事要旨の案を後日作成次第送付させていただくので、そのご確認をお願いいたします。

(以上)